

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎市子ども発達・相談センター まあれ高津		
○保護者評価実施期間	2025年2月21日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年2月26日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子療育	<ul style="list-style-type: none"> 保護者向けの懇談会(勉強会)の設定 活動の様子をフィードバックする時間を設ける 家庭や所属園での様子の聞き取り、連携について確認 	<ul style="list-style-type: none"> 期間中の開催回数や内容の精査をしていく まあれ内だけでなく、家庭や園で取り入れやすい工夫等の検討を丁寧にする(職員間で検討することも含めて) 所属園と保護者の間にはいることでコミュニケーションを取りやすくする
2	短期間、小集団療育、一斉開始・一斉終了クラス	<ul style="list-style-type: none"> 少ない人数で取り組むことで、発達段階やお子さんのペースに合わせた工夫やプログラムの実施をしている。 プログラムに同じメンバーで参加することで、環境に慣れやすい。 得意/不得意を把握しながら、クラスに応じたプログラムの工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化や経験の積み上げがしやすいプログラム設定を行う 保護者へ、お子さんの変化や保護者の方の関わり等についてフィードバックを丁寧に行う。
3	様々な職種、経験、専門性のある職員が対応(地域連携コーディネーター含めて)	<ul style="list-style-type: none"> 色々な視点でお子さんへ関わり発達を促していく支援を考えている。 連携している事業所(療育センター、他区きつずサポート併設児発)の職員との定期的な連絡会や情報交換を通して支援スキルの向上や、対応方法の共有をしている。 外部研修に参加をすることで、支援スキルの向上を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門相談チームと、同法人療育センターとの連携をする。 他区きつずサポート併設児発間の連絡会や会議の設定を行う。 研修に参加、伝達講習含めスキル向上を目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子療育	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の就労状況等により日程のすり合わせが難しいことがある。 送迎の実施がないため交通手段の検討が必要になる。(機関の位置づけ上、必要な支援であると認識している) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して土曜日のクラス(午後)開催をすることで就労状況に合わせやすいようにする。 クラスやニーズに応じたプログラムの内容の充実化を図り親子利用の意義を高める。
2	短期間、小集団療育、一斉開始・一斉終了クラス	<ul style="list-style-type: none"> 短期間であることで継続的な利用は難しい。(機関の位置づけ上難しい) 3か月程度待機となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要性や様相の変化について共有を丁寧に行うことで、ニーズや状況にあわせたタイミングで次の支援先の検討を行う。(機関の位置づけ、役割について理解を深める) 待機が出にくいようなクラス構成、年齢、子ども像、発達段階等を踏まえながらの検討を行う。 クラス利用までのフォローについて検討する。
3			